大本和歌抄

巻第廿六

利
1765
36上

153

門 刺
海 1765
卷 96止

文本和歌の扱書第廿六

雜部十八

賀　大嘗會　元服　行幸　公事

旅　狩獵　眺望　哀傷　羇

戀　古　言語　述懷

改良

定家一

宮内省図書寮

賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠久五年[illegible]

第中納言[illegible]

伊豆國熊坂村　宝藏書

名すらふるこのあさひ　拾
みな百寿寺合　法二位家隆卿
よものうみ波のかずまてきるめさましやのふる万代の名
具親卿
月
地上のくもりそのあつまりまたる波のゆくさきをのちよの
すゑ
土御門内大臣
月
そのうちやいかりしとうけのうつしてあつまこけること
祈　事
月
ちくさいうめのうへるふるれらしかりしつのこと
續古今　月
月
四のうこ行きまわるふたこうたこうめのこゝろ
倍
白太者文屋康秀

月
如ちの美すにやを万代とかさねけてかねひいたまつく
法橋昭
君
前大納言家隆
月
白川なきとやのふのつけてひりとてつる月ひの
関白太政大臣合
千賀
ちくちくしひ海のうつかへるとやのこいとうしいる
月
源仲綱
一万代
あさりの西行のおさしるこるれいさこうつくて風をたけし
治
一百首寺
基俊卿
海とりうこあるいするゝ平れとやのかのむ

同

[illegible]

[illegible]院入道二品親王家百首歌

[illegible]代公[illegible]

百首歌

永代

[illegible]

[illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言　拾

[illegible]

三字下ケ

山[illegible]八文永二年繪[illegible]今[illegible]

[illegible]

[illegible]

我

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七日 濱 真砂

[illegible]

永仁四年十百首歌　後拾遺

柏木 推

[illegible]

同百首七夕

[illegible]

七 言葉

[illegible]

源為昌

お 照 日

[illegible]

昔

[illegible]

花山院内大臣合歌　よしつね

万代といはんそのうらやましさかなとけるあやとやこそうん

第五十二年十二月廿五日内大臣合

[illegible]

[illegible]

源俊重

[illegible]

日 數 盡

[illegible]

永田

[illegible]

源俊頼朝臣家中歌

[illegible]

稲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

925

源孟昌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外 ものまもり 迫 守

[illegible]

毅守 円

[illegible]

光像物語

[illegible]

東 円

[illegible]

4三字下 玄幸 三行分トル

[illegible]

[illegible]

遠孫こそ千百歳の [illegible] 義孝和尚

[illegible] 馬 [illegible] 舎人 待

新続古今俳諧 円

[illegible] 円

百敷 円

[illegible] 幾千年 [illegible]

[illegible]

[illegible] 円

[illegible]

[illegible] 円

[illegible] 円

[illegible] 円

[illegible]

[illegible]

長方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

928

[illegible]

和所西所合用若旅　　[illegible]

[illegible]

寛保二子年百首旅行　　西之條知家

さくらけし神[illegible]そのゆくすえ　　又谷

遠長八子年百首所合　　信之旅行　　恒

[illegible]に[illegible]駒[illegible]

久安百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿

雜

都

月

つき

まて

月

昨日

昨日

分

深山路

今日はは

尾

昨日

玉藻

玉藻

馬草

月

遠信三年分百首　第中納言定家卿

第三度法師

夢

夢の通ふ道の面影

夢の通ふ道の面影

夢の通ふ道の面影

932

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

953

二字下

5

仲実卿たくまのまゐりけるよしを

雲の井かこもりつるかたをこそ

をきてあはれに

大納言公房

うちたのこゑのきゝ侍ぬるかなけうとくよとまりひ

とりに

藤原家隆

片敷

詠歌

嘱見

藤原定家

公相卿花園会詩始ある事 平経正卿

なるこゑのこゑのこゑのこゑ

月

雨

雲

遠

定

遠

月

家集

あつまのやのちのもゝよのいそのうへにとて

藤原

西行法師

西三位知盛卿

あたに

あのへよりたちとまりて

佐実卿

934

[illegible]

[illegible]

[illegible]

935

二字下

はかりの国のうちにてとひきゝかりて人をは
ゝりてうりとをるものをきゝてをこなう
てをこなう

本朝四年中に諸国を義経の
東鑑 めしたがへらるゝやうにのせてつかはされ畏入
をこなう

公卿補任

左の大臣家より行はれてのちはこれをめしん
同 四位侍従
藤原の[illegible]の[illegible]
佐実[illegible]
道祖六

推

[illegible]

光長卿院入洛二京親王家[illegible]

同 四位侍従

建永元年和歌十首の旅

佐京極摂政

上ことのはのいろのゆかりにのこるかな

佐京極摂政家歌合 霜中晴月

玉葉

秋の日のうすきころもにかゝりてゆくへもしらぬ月のかけかな

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

936
1249

諸奇物

國堺にてうりいてくらんをすてゝ

郡家門裏にて羅中山

第中納言宮

そこをとみえぬ山にこゝとこゝとをつゝ

二石落下向は猶うたがはしくも

藏作守

ふしをの作にしかるものやうにかけ

狩猟

三行人カトル

同人連発

同人連発

五月

ふつゝのこゝてにてうりてあさうりに君いらうらきぬ

郡家

五六

あのひきのみものみをみうりにやたいさこゝにうる

乱

五三

ゝうりにて

同

日前宮竟宴

源清隆

有極

川

主

狩

源仲正

居待

月百首

右

こうりすう　ちうてう　ちうてう　ちうてう　ちうてう

遠き世の　かすみ　ちうてう　ちうてう　ちうてう　ちうてう

わさ田の　上　に　みちうてう　ちうてう　ちうてう　ちうてう

家集　長侍月

為忠後百首

山

一字抹

朝

見度

知なは

一二四九

一二六四

937

路

多

狩

鹿

家集未相

信実卿

高かや

笠

心

公朝

源仲正

右

かり

永久四年百首・夏擬

紙伯孫仲正

甲 938

春のうつりかはるこのうすものかさとたつもいまはあらん

仲実卿

春のあけぼのうたかるかとこるまたにうぐいすなれてゐる

源兼昌

ねぶるひすまの海士のつりをとうちはらひてはまの一ひらとみてやねん

藤原為房

春のはてとうちのうすものうちかはりさはるをやうん

二条太政大臣

夏

春のうつりかはりてとうちはらひてそれいかにあつてあるものかな

井欽

寛永三年発句合 春部 源

春深

春のうすものかさとうちはらひてはまのうらん

正長二年百首

こゝろもうつりすてゝたちかへるさとの春

藤原為氏

遠島八年百首奇合

春部

ふるさとのゆきをみすてゝたちかへるこゝろの月のうらん

文永二年百首

春の花を入れる物の

あつまゆき梅つゝまるゝ春のかの片野の原にうゑして

文永二年七月白河院七百首歌

藤原経朝

宮内庁書陵部

乙 939

弘安元年十月十日

ひとへのゆすゑを見て

寄海流花

久安百首歌

鹿

三位分ト

三字ト

鹿

出石

浪

正治二年百首　　藤原定家

ふるさとを　をもひ　をもひ　をもひ

941

家業晩学にして

隆祐卿

ことさらせいみやのうちの名をすさびなみ浪の入るかたをうみ海

寛治二年百首晩学

伝夫卿

ひとりうらいのうらなみ浪にしてなんぬさのてをおきて沖

義安二年度白社会晩学

白太古武蔵権守

新続古歌中

ちぢのかぜ風をたれゆゑまちぬにかはらぬ

同

ちぢのかぜ風をたれゆゑまちぬにかはらぬ

同

源仲郷

941

ふかつ入の三井寺にて

二百年

法印判官倭歌

蜀都雲棲

なるべしふかくゆめり

いそのとまりと云ふ所にて夕立

能因法師

入日さす海辺とみれいひとをあまのすがたしのぶの浦へ

洞院摂政家百首晩学

いかしくとしのうちにものめてをものうらやましきかな

遠久七年九月八首歌合

蜀中納言家倭歌

[illegible]

4 三字下
裏傷 三行ハカトル

延喜四年の四月廿五日の時

天醫御製

黒土 [illegible]

[illegible]

黒土染 色

[illegible]

一万十六 生死

[illegible]

[illegible]

[illegible]

943

玉雅四 舟岡

[illegible]

二字下ル

[illegible]

[illegible]

哀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜中

他所の人へ

七百首中

橋本新作百首

源氏物語

雪ふる人

久安百首

第五度言葉

和歌所

みち井間

995

あるこゝろをさくん是屋のうちの色
あるけ

温生殿御前

ちゝなくそなたにうんらそ夢ふるさとりさらるうれ
けい

子里

三行分トル

14 三字下

家集 百中

近

てゝあるりぬうるまに今宵

ひとりさゆきゆめん初てしりさ

要く

第八

六四

別所の人と世ひとこゝろをきゆるらをわやうらん

玉葉 貫之集

第中初を迫房々

夢

ひさ近また日

ゆきうるこゝろ秋はゆめのうらうてしるく

第廿法師

家集

夢

日

ゆめのたまゆにかよをめ

ゆきまたうるゆ

第廿院入道二条のみこ

百五十首

こゝろ

ひとりやうてれたうけはゆめるひやしをのゆ

百五十四首 松 即百家

ひとりきのうちのれにとうてをれゆめに風て

第廿院入道二条親王家千首

第六番 百家

さら

ひとりてをうかゆとうしさ春の中にちゝやむりみんさうん

四番 百首 廿 即

恋 廿 初句

946

文治六年五社百首

建久元年百首

建久二年百首

夢

花月百首

一百首

文治六年五社百首

建久元年百首

建久二年百首

遠間

雲に

みさと

一百首

夜半逢夢

一名法花四部経

逢

玉葉二

師

夢

中務

現

夢

月

逢

夢

戀

月

逢

二

夢

八

夢

二字下

行くべき武蔵の国の海
流れに対へる向ふ方なりてまぢれる
とうや美濃うるこそとりどころなけれ
ここのくにのうちまつるまつのかげ
海勝第

文亀元年三月廿日美濃国
[illegible]

別れ相思ふ美濃遠 千里

家集之中 元長

[illegible]

歌集

和歌式ア

[illegible]

[illegible]

[illegible]

4 三字下

恵

三行分トル

寛平御時后宮歌合　よみ人しらず

新撰万葉

かつらぎやくしげ山のさくらばな　月
白雲のたえまにみえてちりぬべし　月

寛和二年内裏歌合　源重家

ひとしれずなみだをかこつ秋の夜に　月
ふるしらつゆのかずをそへつつ

文徳実録二年太政官百首　宮大夫

ちはやぶる神のいがきにしるしをば　月
神のまもりとなれるなりけり

治暦二年内裏百首和歌　月

もろもろあれといとひそくもとりもつさもとりのかけ　月
もろもろいろ花ちるけのそらとみんのもりもつけふりけつこか

寛和二年内裏歌合　源二位重隆

ふるさとにやどりもとめてやどりもとめ　月
柳花新緑百首

うらぶれぬ　月

郁芳門院

宮内卿

文治二年百首歌　前中納言定家卿

ちはやぶる神のいがきにしるしをば
もろこしもとりもつさもとりもつけふりけつこか

家集

[illegible]

のちのあしき

[illegible]

月前

[illegible]

[illegible]

[illegible]

951

月

ゆくすえ

ちはやまりこひしき袖はやとられてなくなくこそすれ

西之住僧都

あるものとこちらひなるさしもすひとりのもりのしかつらしか

百首哥奉合之

第中納言宗家卿

おろかなるもしすりけるなるよりあけまたのこのうちあひまけん

結

鏡

こひやせてなきのうけをのさこれいろぬ人もぬるなるかな

三位中納言道房卿

この哥はあるあにしひあやしきあるてあるひ

けだてあひてのちあさぎのそるあてつけてはつ

月

宣旨院大納言

遠橋百首哥

浄土寺入道前内大臣

ふかくなんなん

ふるとくなるとくなるとくな

952

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月ゆへとゝ人のいひて誰とはしらぬものゝ

前中納言

あちきなくゝ人のこゝろひつまはくゝふ月ごろ

藤業

むすひさんゝのこのあさるれやみさるかのこゝろ

前中納言

あやひ物ゝさゝやはこゝのきぬとんまきの為ものき

六百番前合歌為忠

ふゝき秋の物ゝたるあをやひんまきちすさむ嘆

藤業

六五

ゝうゝくんのうちよりあさうゝくるとさゝられてあるん

六百番

いゝくさんひとゝ分ゝくゝくんのゝくゝけつる

為忠卿

為俊卿

為忠卿

為俊卿

為俊卿

為俊

行尋

海

ちかのうみ　ゆくすえ　ゆくすえ　ゆくすえ

[illegible]

安元二年十月大炊御門合曉恋

[illegible]　　藤原師[illegible]

[illegible]

[illegible]

五
なりらのやうつまのすくうせのきのきのき

百十六

八十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

958

西園寺左大臣

知顔

おもかげ

家集

寒

手

月

月

月

959

一百首　響　花中納言定家卿

[illegible]

一百首　我

[illegible]

文治五年百首　萩

[illegible]

百首歌　合　宵

[illegible]

洞院摂政家百首

[illegible]

摂政家百首

[illegible]

二百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のうちにまきりうるてそ鶴陰永みきいのあ[illegible]

嘆花暗蕾露霧庭斬草書を屏風に

秋の野に人まつむしのこゑすなり

貞應二年九月四首歌

民部卿

ちりつもるもとの木すゑのこがらしに

散てはかなき櫻の葉

康安元年毎日一首

ちるはなのかをるこしまのうらかぜに

なみのはなのかをるなりけり

建長三年毎日一首

ふるさとのはるのあけぼのかすみこめて

ゆくへもしらぬ春の山ぢ

寛元二年法樂百首

現在

あるがうちの流のみなもとをたづねてし

いくよをへぬるかをるなりけり

世をうしとなげくこころはなのもとに

ゆくへもしらぬ春のあけぼの

法樂百首

夕立のうのはな村雨ふりしきてゆくへ

たづねてうつるの影の白玉

ゆくへ世をなげくこころはなのもとに

ちるはなのかをるこしまのうらかぜ

海辺家百首

海辺

春霞ゆくへ

日をかぞへ立そのうの浦の

雜部中

玉秋上

つゆ玉

まつのうへ苔のしたのかけのみず

ゆくすゑとをくやすみのえのうら

第中納言百首

[illegible]年百首　入道前太政大臣

[illegible]

平定頼卿の母の法名福仙

[illegible]

或人の屏風に[illegible]

[illegible]

[illegible]の花に[illegible]

山里の人の家に[illegible]

[illegible]に[illegible]

[illegible]

[illegible]

962

一三六上
一二八二

散木夏

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

963

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月十日 少

法師のもとにまうでてあそびうたいじまうこと

つけ加へ

僧源法師

初雁

雁のこゑのはつかにきこえしを

聞はじめをよろこびてゆくとぶ

ならはせるこゑ

僧教弁

呉

行のつかのもとにまうでたるに

竹の

妹

永久四年百首 源孟昌

永久四年二月十日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家系百首井序

かうのゐにうけたまはりてすひりうやうのはつみ

とのはしの百首歌序

ちからすきうのみちをうつさんとしてにせ

御門社百首和歌序

そのうちのたんのうちにこのうたなきのうちなけれ

玉意二

百首歌合

ちうしやうのゆめのうちにあらはれたること

月

なりするんの孫ひとりはひとりてのきよちのつとうけ

流

月せん

月

ちうけんにすりてとうけやつらんさいかなる

月

月

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日吉社法華会

[illegible]

遠島二首 [illegible]

[illegible]

遠島百首会歌

[illegible]

[illegible]

遠島百首会歌 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

ともにけ

三百五十合

家業

間　島

同

同

新拾葉

三百首中

萩

夢ちよ人

程に

同

三百首中　藤原為家

家子三首

西行法師

遠き八幡百首合　第六　詞言部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出集花紅葉

強会歌

こころ

やまさくらさかりとのこる梢花さくれとなほちりぬへしころ

歌集花前中　雨打ち入

もしこれいそのいたれるけれもくのうらそこらつるる

ふしの山をるのはてしてこねゆるはしいこそとそよ　みゆん

をろ花はまさりてちりねむうき色をひとふくあるかそ

あらたちうさそそ水すえのもものめすこしのこ色きのふ　色せ

ゆるうつりもしを花をそふりそ　みそろりのよろうん

月前中

晴

それはるぬのみさきはとすはやとふりあ　月

月

月前中

海

もしてをもつのもをやとそ月のすとそをそすきけろ

ゆきはるの月をろれくそをのやそうしいつらたきん

巡

歌前中

月

ありくはにとたくをのかるをそ月をすてるをを　月

秋月

月

秋月のけ月のけ月のけ

せくことにてこそるうかの恋ゝとこそ思ひもうきなれ

恋部中

あやまつて人をこそとふらせんそのひとつきなりとて
さうことのあるなりうりとおもひはそしめ思へとそ
思ふことのあるへきさうはと思ふ丹ふ
けのうりうりふしよんのあるへそひとつ
むつかしきもちるけきの般のもうひてそれやへ
さのりとそとかのうたへをこうれは咲めるのうちくらへすれ
あるへいへをこうさうれる咲ものうれやへの
ひとそやさうたんのおさうひてうはきれうこうひすする

人をこうぬるこうたにむせこうるをいひきうつきそそうら
ぬるつるけきのうけりえてそのうちるぬいはなみたかるる
をの恋ゝへのうけそうこうれうこうるゝ月をあるあるて
いひうそうこうるむ恋りへうへへの心のうへ

雑部中

うそうすひくのはうてうのひくをうにうむそかるりけう
かこまるうてに源のかるかなはうとうあうれ
玉神栖

二字下

ら

ら

ら

六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君住

[illegible]

[illegible]

[illegible]

974

悲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歓楽

[illegible]

[illegible]

夢

[illegible]

[illegible]

老

[illegible]

自

[illegible]

共

[illegible]

老

[illegible]

[illegible]

[illegible]

995

五月

続古雑下

過

日

玉葉歌

咲

哀

他の人人

悦

歎

老

同

同

老

亮

木

老

貫之集

枝

同

御集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

977

駒影

いふやんとくるさ人のいとあさのとそあめのしたのしのはすくりの
うけのたまにうまぬをさのうたはんとくのこちや壞島
まの寺

遠藤橘亭中

影々百首

遠藤橘亭百首中

天原

久遠の遠藤社百首遠藤

人のつのつのつ教へてあてはけるかりまらん

第九三年新撰遠藤遠藤

言の葉は

ようにつひのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつ

第九年新撰遠藤

加茂社百首

行

ものつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつ

人のつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつのつ

三百寺十首四寺

神社百首

影々百首

深く八重

新撰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

980

たつるたすり宗

うろひのうろり、

前中納言定家イ

第六段 正義法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

981

そのかぜのうへにのこりたるの花のいろ、おのづからそ
なへたるさま、そこはかとなくあはれなるに、
あたらかしこ、あすまでもとまらぬ花のいろ、
みなの名ごり、それのみにて、今はぬるべきかぎり

及京

きりぎしとそびえたるかぜのうへ、山のはかはつ
前大僧正慈鎮
第中納言定家

かるる

ひさうこのおのづからなる、かぎりなきあまのつきをと、ちひさき
神まつりまで、まもれて、まもるかぎりなく、
きりぎしのすき村、いろうつりとしらぬ、
やへのもろ雲、あるあめかぜ、とるにつけて、このかぜのうへ、
おとこえぬきにたる道、うつむきあり、
人さへぬ、こだのうつむきも、ここのさの、ふたつこ、
雲井の空に、まもりてるあめ、たすけとしかぬとり、
ありすてて、ひとりぬ、もとのふるさまれる、あとあて、
ある紀のうれ、むすふて、法のあれのそこすて、ふるあめ、
あるりて、ぬるのまた、うけやとた、秋のあるの月をまた

猶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

983

別冊ニ付別

跋

此夫木和歌抄者、藤原朝臣長清自撰也、昔中頃之歌仙之家集、並代々勅撰に漏るゝ和歌を拾集所也、日〻今以後之為勅撰之、又此道に志あらむ人のために、世之嘲を不顧集置者也、又夫木抄と名付事、今案に非ず、此鈔之名を思案じて少しまどろ見て有ける夢の中に、白衣之老翁一人來曰、汝所撰之和歌抄者、我朝之至寶也、未代之證歌成べし、倭國之風俗なれば扶桑集と可名付と謂れけるを、夢心地に是は誰人にて御座ぞと問ければ、我は是和歌の道に心を留し、江中納言匡房と云者也とて、夢覺ぬ、此

長清法名蓮昭

国書刊行會

別冊

夫木和歌抄巻第三十八終

984

曲を冷泉黄門為相卿に被申ければ、為相卿此事希代不思議之靈夢、末代之希特誠我朝之深祕釣也、但扶桑者日本國總名也、可有其憚扶の字のつくり桑の字の木を取合て、夫木和歌抄と名付

夫木和歌抄いんさき藤原長清えらびおきしより、ちきちきの道に心をたのしぶ人、もてあそぶふみとなりにけり、ちかはあれどながれの末にはとめすして、鳥のあとのみなもとわいくしくおもほえねばいづれを見るもよすがなく、更にひとりびとりの家集をかがへたはなはただし侍るものならし、猶ねもころにはざえあらんむまひとのこあらためたまふべし

夫木和歌抄 九尾

改段

國書刊行會

985

坐右

跋

世史未和歌抄者藤原朝光卿撰也清自
撰也昔中院入道亮仙入道亮集并代々
勅撰之撰集之歌也自
之始入道亮勅撰之又法通寺殿何
之人之撰也亦入道亮勅撰之少納言集
勅撰也又史未抄也是身事也之案
之撰集也世無之思案之而少
史抄是也有之之事少仲之白衣之
之為一人耳曰世一時撰之和歌抄而
歌之之寶也東代之撰方成

春林

圖書刊行會

#980

夫木和歌鈔者、しんさ九藤原長清えらび
をきしをもとしたがひ道しるべをたづねて
もてあそぶ木元とあるとも書たるあれとなれ
北末ハとをもしてハ島尺おもしれもとハ、
くもりなしおもかえ祢ハつれをえらもるなる
文ひとりもしれ歌集をかゝなへれかなはた
しかるあれなりし猶祢もこゝろよさをえ
らんもまれとれこあらくあたまつ

寛文五乙巳年正月吉辰

烏丸通下立賣下ル町

野田庄右衛門板行